



# 第94回日本感染症学会総会・学術講演会 ランチョンセミナー15

日時 2020年8月20日(木) 12:10～13:00

会場 第6会場 グランドニッコー東京 台場 (B1F エトワール)

〒135-8701 東京都港区台場2-6-1

## 呼吸器感染症における 適正抗菌薬使用 ～迅速診断法の進歩と活用

座長

**青木 信樹** 先生

信楽園病院 呼吸器内科・感染症内科

演者

**宮下 修行** 先生

関西医科大学 内科学第一講座  
呼吸器感染症・アレルギー科

本セミナーは整理券制です。

【配布場所】B1F「第1会場(パレロワイヤルA)」前

【配布時間】4月17日(金) 8:00～11:00

※配布枚数は1名様につき1枚とさせていただきます。

※整理券はセミナー開始5分後に無効とさせていただきます。

共催

第94回日本感染症学会総会・学術講演会 / 旭化成ファーマ株式会社

# 呼吸器感染症における適正抗菌薬使用 ～迅速診断法の進歩と活用

関西医科大学 内科学第一講座呼吸器感染症・アレルギー科 宮下修行

わが国では、欧米とは異なった感染症診療スタイルが定着している。2009年インフルエンザパンデミック時、日本人医師の多くは診療スタイルを変更することなく、インフルエンザによる被害を世界最小限に留めた。すなわちインフルエンザの迅速診断を行い、治療法を決定する日常診療スタイルである。原因微生物推定による標的治療は、治療の短縮や薬剤費の抑制につながることで、さらに薬剤耐性(AMR)対策に直結する。ただし、原因微生物を同定することは容易でなく、いかに優れた微生物学的検査室が存在しても原因菌判明率は50%程度である。すなわち、専門技師不在の病院やクリニックでは原因菌判明率は低くなる。したがって簡便迅速診断検査を施行しても原因微生物が判明しない場合には、AMR対策アクションプラン実践のための臨床的微生物推定法が必要となる。

日本呼吸器学会は2000年に「呼吸器感染症に関するガイドライン初版」を公表し、数年毎に改訂を実施している。その基本理念は「感染症の治療効果の向上や国民健康の増進に役立つこと」であるが、これに加え「菌の耐性化予防」や「医療資源(抗菌薬)の有効利用」を重視している。したがって、抗菌薬の不適切使用や乱用は耐性菌を出現させるため、抗菌力が強く、抗菌域の広い薬剤を安易に使用すべきでないことを基本理念としている。このためガイドラインでは、迅速診断法の活用を推奨し、微生物が特定されなかった場合には細菌性肺炎と非定型肺炎を分けて、より狭域な抗菌薬を選択する手法をとっている。エンピリック治療とは大きく異なり、また、欧米のガイドラインとは異なった、わが国独自の発想である。感度や特異度は他の検査法と比較して劣るものの、欠点を理解して使用すると有用性が増す。この呼吸器感染症に関するガイドラインは非専門医や実地医家を対象としたもので、診断法も非専門医や実地医家が使用できる簡便性が必要であろう。